

# 月刊 いっぽ

vol. 40

2019年7月号

denken

新着情報

今月号は「第10回教育ITソリューションEXPO」を特集します。(セミナー編)

3日間で31のセミナーが開催されました。  
その中から、4つのセミナーについてご紹介します。

## 「教育の情報化の最新動向と今後の展望」

講師：文部科学省初等中等教育局

文部科学省 新時代の学びを支える先端技術活用推進施策（中間まとめ）  
の概要説明 ※最終のまとめは6月末に発表予定

### 1. 大きな3つの柱

- (1) 遠隔教育の推進による先進的な教育の推進環境の整備
- (2) 教師・学習者を支援する先端技術の効果的な活用
- (3) 先端技術の活用のための環境整備

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/other/1411332.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/other/1411332.htm)

この柱をもとにして、4つの推進施策

- ①世界最高速級の学術通信ネットワーク「SINET」の初等中等教育への開放
- ②パブリッククラウドの利活用に向けた教育情報セキュリティポリシーに関するガイドラインの在り方を検討
- ③安価な環境整備に向けた具体策の検討・提示
- ④学校ICT環境の現状・課題を踏まえた関係者の専門性を高める取組の推進

### 2. 総理大臣施策方針演説（2019.1.28）

- (1) デジタル教育環境を5年で整備
- (2) AI戦略2019
- (3) Society5.0

[https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/society5\\_0.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/society5_0.pdf)

※学校の情報化は今や政府全体の重要課題。

## 「教育ICTと総務省の取組」

講師：総務省 情報流通行政局

### 1. 政府方針

- (1) 未来投資戦略2018
- (2) 世界最先端IT国家創造宣言2019

### 2. 取組の紹介

- (1) スマートスクール・プラットフォーム実証事業  
文部科学省と連携し、「校務系システム」と「授業・学習系システム」間の、安全かつ効果的・効率的な情報連携方法などについて実証、標準化する。

- (2) 4S for School:クラウド導入の推進

[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000411858.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000411858.pdf)

- (3) 若年層に対するプログラム教育の普及推進  
実証モデルを創出し全国へ普及

- (4) 未来の学びコンソーシアム

関連省庁が、学校、民間等と連携して、デジタル教材の開発や外部講師派遣など、学校における指導の際のサポート体制を地域や家庭とも連携しつつ構築する。

- (5) 地域ICTクラブの整備

課外の時間にデザインやアプリ制作、世代間での知識・経験の共有などを通じて楽しく学び合うことで、子どものICTに対する興味関心を高める。

7

月

1

日

(

月

直

大

下

正

徳

## 来年から必修化

～今からでも始めたい小学校プログラミング直前対策～

講師：展示会出展関係者

## 1. プログラミング教育の目的

- (1) 「プログラミング」を学ぶではなく、「プログラミングを学ぶこと」を通して論理的思考を学ぶ

例：教材ロボットで多角形を作成した場合  
誤）多角形が書けるようにプログラミングできた。  
正）多角形を書くことを通して、多角形の性質を理解する。

## (2) 分析する力

行動パターンを理解し、分析する。

例：朝、学校に来たら何をやるのか？を理解し、分析する。  
靴を脱ぐ→靴箱に入れる→廊下を歩く→教室のドアを開ける。など  
※電子教材がなくても学ぶことは可能。

## (3) 「写経」でなく「思考」が必要

ロボットを動かすだけでなく、ロボットを動かす「目的」が必要。

## 2. プログラミング教育を実施するために

## (1) 子どものつもりで触る

まずは、先生自身が触ってみて、興味関心の部分を感じとる。

※パンフレットだけで教材を選ばない。

## (2) 授業のイメージをつかむ

仲間や組織を作り、協議する。

公開授業、展示会への参加や、オンライン資料、書籍などを利用して、情報を収集する。

## (3) 教材、ツールの選び方

何を学ばせたいのか？イメージが重要。

【コスト】

お金：無償のもの、安価なもの。※カタログだけで決めず、触れてみる。

運用：扱いやすさ。※Web、書籍などから情報。

管理：充電方法、持ち運び、破損、紛失等を考慮する。

## 新学習指導要領 実施直前

～ICT整備・活用のため、今からできること～

講師：展示会出展関係者

## 1. 新学習指導要領と情報活用

- (1) 「学ぶ」から「学ぶ力」へ  
主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）
- (2) ICTが普段からある授業へ移行  
紙や資料ベースの授業から、タブレットや電子黒板などのデジタル教材へ。
- (3) 情報活用能力のためのICT操作を習得。  
子どもの「キーボード入力スピードが遅い」ことが、ICT活用の妨げになっている。日本は、ICTを活用しない学習能力は高いが、ICTを活用した学習能力は低いという結果が出ている。従って、各教科の効果のために基盤となるICT操作の習熟度を引き上げることが必要。

## 2. ICT環境整備施策例

- (1) 教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（2018～2022年度）
- (2) 動画による研修教材が主流となり増加  
Mextchannel <https://www.youtube.com/user/mextchannel>
- (3) SINETの解放  
日本全国の大学、研究機関等の基盤であるSINETを小中学校へ解放を発表。  
→動画や遠隔授業の促進に期待される。
- (4) パブリッククラウドの利活用に向けた「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」の在り方の検討
- (5) 携帯電話の取り扱いの見直し  
東京都教育委員会は20日、都内の公立小中高校への携帯電話やスマートフォンの持ち込みを認める考えを示した。（朝日新聞2019.6.20）
- (6) AI教育の促進  
国立大、全学部でAI教育 文部科学省が改革方針（日本経済新聞2019.6.18）  
→大学で実施されることで、大学入試対策を行う高校、更には小中学校への普及が予測される。

7月1日（月）

日直

大下デンケン

正徳